

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

1 学習指導

- ア 新学習指導要領に対応した教育課程の円滑・適正な実施に取り組んだ。
- イ スタディサプリを導入し、活用を推進したが、一部に活用されていなかった。
- ウ ICT機器、スマスク端末の活用を推進し、オンライン授業・家庭学習の拡充を図った。
- エ 企業や上級学校と連携した授業を工夫し、主体的な学び・わかる・楽しい授業に取り組んだ。
- オ 段階的・系統的な学習指導に取り組んだが、各種検定試験3級全員合格は、達成できなかった。
- カ 図書館利用を推進し、読書・新聞の活用を図った。

2 生活指導・健康づくり

- ア 養護教諭、SC、学校医、外部機関との連携を深め、生徒の心・健康のケアの一層の充実に努めた。
- イ 発達障害教育推進エリアネットワークの活用を推進した。
- ウ 特別支援委員会を中心に生徒の情報共有を図り、いじめ・自殺等防止と学習障害の対策を講じた。
- エ SNS・薬物・詐欺などについての正しい理解を深めさせ、生徒の安全を確保した。
- オ 交通ルール・安全走行について指導を実施し、自転車安全走行指導を徹底したが、ヘルメットの着用率は低かった。

3 進路指導

- ア ガイダンス機能を高め、進路指導部、学年のみならず全教職員で生徒の進路実現を図った。
- イ 学年集会、個人面談を活用して、粘り強く「諦めさせない」指導に努めた。
- ウ 大学進学希望者には、模擬試験を奨励し、自己理解を深めさせ、的確な目標設定を指導し、一般受験を含め28名が大学に合格した。
- エ 職業、仕事と資格の関係、働くルールなどについて、理解を深めさせる指導を徹底した。

4 特別活動

- ア リサイクル・美化活動を推進し清潔な学習環境の整備を行うための手立てを検討し実施した。
- イ 新入生の部活動参加を奨励し、生徒の学校に対する帰属意識を醸成した。
- ウ 体育祭・文化祭を通じて生徒の成就感・達成感を高めた。
- エ 生徒会・委員会活動を支援し、生徒の自主的・自律的な活動の充実に努めた。

5 募集・広報活動

- ア HPには、最新の授業や行事、部活動等の様子を魅力ある工夫を施しPR効果を高めた。
- イ 学習塾や西部地区への積極的な広報・募集活動を検討し実施したが、結果に結びつかなかった。
- ウ 出前授業・学校説明会・見学会・授業公開・部活体験等の充実を図った。
- エ SNS等による発信力を強化した。

6 学校経営・組織体制

- ア 分掌主任を中心に強固な組織体制を構築し中間・年間を総括し成果と課題を検証し活性化を図った。
- イ 教員定数・生徒減に伴い、業務・行事・部活等を見直し、業務の効率化を図った。
- ウ 節電等の省エネルギーや資源リサイクルを推進した。
- エ 保護者との円滑な連絡体制を強化した。
- オ ホームページ適正管理、セキュリティ対策、情報漏洩事故の防止について周知徹底を図った。
- カ 施設・設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕に取り組んだ。
- キ 服務事故防ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立した。

(2) 重点目標への取組と自己評価

1 学習指導

- ・商業高校における共通教科のあり方を検討し指導内容の工夫改善を図り基礎学力を向上させた。
- ・校内相互授業参観があまり実施されず、教科横断的に最適な指導方法を研究し、授業力の向上があまり図れなかった。
- ・オンライン個別学習（スタディサプリ）の稼働率を高められず、家庭学習時間の改善を図れなかった。
- ・オンライン学習データの充実を図った。
- ・各教科、特別活動等においてNIE・SDGsに関する取り組みを推進した。
- ・商業教育コンソーシアム等との連携によって最前線のビジネス教育を実践した。
- ・ビブリオバトル等の機会を利用して、未読者率の改善を図った。
- ・商業基礎的検定3級（簿記・情報処理・電卓）合格率100%は達成できなかった。

2 生活指導・健康づくり

- ・学校生活において、整理・整頓・清潔・清掃・作法・躰の6つのSを実施した。
- ・挨拶励行、私物・SNSの適切な管理について、指導の徹底を図った。
- ・頭髮や身嗜みの統一基準について、共通理解の徹底を図り、生徒・保護者に周知徹底し理解を得た。
- ・様々な機会を通じて、健康・安全、奉仕、国際理解親善の活動の機会を推進した。
- ・生きる力を育む歯・口の健康づくり推進に取り組んだ。
- ・SCや関係機関との連携を強化し、特別支援委員会を中心に特別支援の充実を図った。
- ・自転車利用者のヘルメットについて、1人でも多く着用するよう指導に取り組んだが、着用率は低い。
- ・遅刻回数 1日あたりのクラスの平均遅刻人数は2人であった。

3 進路指導

- ・生徒の進路希望の変化に応じて、就職、大学、専門学校等の分野に応じた指導体制を改善した。
- ・保護者や生徒に対し大学入試、就職活動についてきめ細やかな情報提供・相談を実施した。
- ・面接、作文（小論文）、志望理由書の書き方、進路相談について全教員で対応した。
- ・ビジネス人材育成推進校における「職場体験」を利用し、職業観・勤労観を高めた。
- ・就職希望者進路決定率100%

4 特別活動

- ・部活動加入を奨励した。
- ・各行事を通して、生徒の自己肯定感を向上させ、リーダーシップ・フォロワーシップの育成を図った。
- ・地域貢献活動の推進を図った。
- ・年4回の避難訓練等を計画的に実施し、防災知識を深めさせ、実践的な行動力を身に付けさせた。
- ・部活加入率は68%であった。

5 募集・広報活動

- ・文化・スポーツ等特別推薦の方法について見直しを検討し、硬式野球部のみとした。
- ・学校説明会、部活動体験、授業体験などについて、一層の工夫・強化を図ったが、結果に結びつかなかった。
- ・中学校への出張授業、出張説明会の機会を拡充した。
- ・施設の都合で、学校開放事業を推進することができず、学校の教育力を地域に還元できなかった。
- ・推薦入試の応募倍率1.2倍：学力一次応募倍率0.69倍

6 学校経営・組織体制

- ・四商改革PTを機能させることが、あまりできなかった。
- ・教職員アウトリーチ型相談事業を運用した。
- ・各自で定時退庁日を設け、在校時間の縮減を図るとともに、年休取得を促進した。
- ・各種会議の上限を1時間以内とし、ペーパーレス化、業務の効率化を推進できなかった。
- ・警察署、消防署、区役所等との連携を強化し、安全管理の徹底と危機管理体制をとれた。
- ・経営企画室の経営参画機能を高め、安全で整理された学校環境の維持管理を行った。
- ・保護者コミュニケーションシステムの利活用を推進した。
- ・企画調整会議の内容について各分掌主任は分掌メンバーに確実に伝達し周知徹底を図った。
- ・研究紀要（復刊第3号）を編集・発行した。

2 次年度以降の課題と対応策

1 学習指導

- ・現行の教育課程を見直し、生徒の実情に応じた教育課程とする。
- ・スタディサプリを活用し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- ・ICT機器、スマホ端末を活用し、オンライン授業・家庭学習の充実に資する。
- ・企業や上級学校と連携し、生徒が主体的に取り組み、わかる楽しい授業づくりに取り組む。
- ・段階的・系統的な学習指導に取り組むとともに、補習等を実施し、各種検定試験3級全員合格、および上位検定試験合格をさせる。
- ・図書館利用を推進し、読書率を高めるとともに、授業で新聞の活用を図る。

2 生活指導・健康づくり

- ・養護教諭、S C、外部機関等との連携を深め、生徒の情報共有に努め、生徒の個に応じた支援を組織的におこなう。
- ・エリアネットワークを活用し、特別支援教育を充実させる。
- ・特別支援教育推進委員会や学校いじめ対策委員会を活用し、生徒情報の共有に努めるとともに、いじめ、自殺等の未然防止に組織的に取り組む。
- ・警察等外部機関と連携を図り、生徒の安全確保に努めるとともに、犯罪者にならないよう指導を徹底する。
- ・外部機関と連携し、より一層の交通安全教育に取り組み、ヘルメットの着用率を高める。

3 進路指導

- ・進路指導部、学年のみならず、全職員で生徒の進路実現に向け、面接指導等の進路指導にあたる。
- ・進路情報の共有化を図るとともに、組織的な取り組みにより、進路実現に向け「諦めない」指導に取り組む。
- ・大学進学希望者には、模擬試験の受験など自己理解を深めさせ、的確な目標設定をさせ、進路実現を図る。
- ・働くことの意義やルールを理解させるため、1年次でインターンシップを実施する。

4 特別活動

- ・清潔な学習環境を整えるため、美化活動を推進するとともに、リサイクル活動にも取り組む。
- ・生徒の帰属意識を高めるため、新入生の部活動参加を奨励する。
- ・体育祭や文化祭等の学校行事を通して、成就感・達成感を高める。
- ・生徒会・委員会活動において、生徒が主体的に諸活動に取り組めるよう、支援する。

5 募集・広報活動

- ・ホームページを随時更新するとともに、ホームページの充実を図り、情報発信を積極的におこなう。
- ・中学校や学習塾への積極的な広報・募集活動に、全職員で取り組み、応募倍率の向上を図る。
- ・出前授業等に積極的に取り組むとともに、学校説明会等を充実させ、応募倍率の向上に務める。
- ・SNS等を活用し、情報発信に努める。

6 学校経営・組織体制

- ・分掌主任を中心とした学校組織体制を確立し、中間・年間で成果と課題を検証し、活性化を図る。
- ・業務の効率化を図り、ライフワークバランスに取り組む。
- ・SDGsの一環として、節電等の省エネルギーに積極的に取り組むとともに、資源リサイクルに積極的に取り組む。
- ・保護者との信頼関係を構築し、円滑な教育活動に取り組む。
- ・サービス事故防止研修を毎学期に実施し、サービス事故の防止に努め、サービス事故をゼロとし、生徒・保護者の信頼を確立する。
- ・経営企画室と連携し、施設・設備の安全管理に努める。